

## 寄贈図書リスト

宇宙は“地球”であふれている, 井田 茂, 佐藤文衛,  
田村元秀, 須藤 靖, 四六判, 234 頁, 1,580+税,  
技術評論社

銀河進化の謎, 嶋作一大, 四六判, 166 頁, 2,400 円+  
税, 東京大学出版会

階層構造の科学, 阪口 秀, 草野完也, 末次大輔, 四  
六判, 236 頁, 2,800 円+税, 東京大学出版会  
スペースガイド宇宙年鑑 2008, (株)アストロアーツ  
編, A4 変形判, 128 頁, 1,580 円(税込み), (株)  
アストロアーツ

書評をご執筆の方には, 上記の図書を差し上げます。  
ご希望の方は [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp) まで。

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月 20 日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致  
します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお  
申し込み下さい。

e-mail で [jimu@geppou.asj.or.jp](mailto:jimu@geppou.asj.or.jp) 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送り下さい。

## 人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿下さい。結果は必ずお知らせ下さい。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇など)

### 東京学芸大学教育学部自然科学系 宇宙地球科学分野教員

1. 准教授又は講師 1 名
2. (1) 東京学芸大学教育学部自然科学系 宇宙地球科学分野  
(2) 東京都小金井市
3. 気象学または天文学
4. 気象学または天文学, および, 理科教育に関連する学部および大学院の授業を担当していただきます。
5. (1) 平成 20 年 10 月 1 日以降のなるべく早い時期  
(2) 常勤 (任期なし)
6. 博士の学位を有する方, 気象学または天文学の研究・教育に実績があり, 教員養成のための教育に関心のある方。
7. (1) 自筆履歴書 (市販の用紙に写真を貼り付けてください), (2) 研究業績目録 (査読つき論文, 査読なし論文, 著書, その他に区分), (3) 主要論文別刷 (5 編以内, コピー可), (4) これまでの研究経過と今

後の研究計画 (2,000 字以内), (5) 地学教育についての抱負 (1,500 字以内), (6) 応募者について意見を伺える方 (2 名) の氏名と連絡先

8. 平成 20 年 6 月 30 日 (必着)
9. (1) 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1  
東京学芸大学自然科学系 宇宙地球科学分野  
主任 中田正隆  
(2) 宇宙地球科学分野 主任 中田正隆  
Tel: 042-329-7533  
e-mail: [nakata@u-gakugei.ac.jp](mailto:nakata@u-gakugei.ac.jp)

10. 封筒には「応募書類在中」と朱書きし, 簡易書留郵便で送付してください。男女共同参画社会基本法 (平成 11 年法律 78 号) の精神を尊重するとともに, 国籍, 障害等による差別を排除し, 公平な選考を行います。面接をすることがありますが, その際の旅費は支給できませんのでご了承ください。応募書類の返送を希望する場合は, 必要額の切手を貼り, 宛名を明記した封筒を同封してください。採否の通知は応募者に直接通知します。

### 慶應義塾大学理工学部教員

1. 助教 1 名
2. 物理学科・基礎理工学専攻 (物理学分野)  
岡 朋治研究室 (宇宙物理学実験)
3. 観測に立脚した宇宙物理学実験。とくに, 星間物質の観測的研究と新しい観測装置の開発に積極的に取り組む意欲のある方であれば, これまでの研究分野は問わない。岡 朋治准教授と協力して研究室を立ち上げていただく。また, 当学科担当の教育 (学部 1-3 年生の物理学実験・演習および学部 4 年生・

大学院生の指導)にも協力していただく。

5. (1) 2008年10月1日  
(2) 5年程度で成果を挙げて転出することが望ましい。
6. 博士の学位を有するか近い将来取得見込みの方。
7. (1) 履歴書(教育歴 e-mail アドレスを記入のこと), (2) 業績リスト(原著論文, 解説, 国際・国内学会発表, 競争的資金獲得状況等に分けること), (3) 研究業績の概要(共同研究などの場合には応募者の寄与を明記すること), (4) 主要論文別刷5編以内(コピー可, 共著の場合は研究内容・執筆の分担に関するメモ添付), (5) 着任後の研究・教育に対する抱負(2,000字程度), (6) 推薦書, または照会可能者2名の氏名, 所属, 連絡先(含 e-mail アドレス)
8. 2008年6月16日(月)必着
9. (1) 〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1  
慶應義塾大学理工学部物理学科  
主任 辻 和彦  
(2) 物理学科 主任 辻 和彦  
Tel: 045-566-1687  
Fax: 045-566-1672(学科事務室)  
e-mail: tsuji@phys.keio.ac.jp
10. 封筒に応募書類在中と朱書きし, 簡易書留で送付のこと。

### 名古屋大学大学院理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻教員

1. 助教1名
2. (1) 素粒子宇宙物理学専攻 理論天体物理学研究室 (At 研)  
(2) 名古屋市
3. 広い意味での観測的宇宙論
5. (1) 決定後できるだけ早い時期  
(2) 任期なし
7. (1) 履歴書, (2) これまでの研究概要, (3) 研究計画, (4) 業績リスト(主要論文3編以内を明記すること), (5) 推薦書1通, または意見を聞ける方2名の連絡先, (6) 着任可能時期
8. 2008年6月13日(金)必着
9. (1) 〒464-8602 名古屋市千種区不老町1  
名古屋大学大学院理学研究科 物理学教室  
主任 和田信雄  
(2) 同 理論天体物理学研究室 杉山 直  
Tel: 052-789-2427  
e-mail: naoshi@a.phys.nagoya-u.ac.jp
10. 物理教室の選考基準については,

<http://www.phys.nagoya-u.ac.jp/scholar/pub.html>を参照してください。封筒に「理論天体物理学助教応募書類在中」と朱書きし, 簡易書留で郵送のこと。応募書類は, 特に申し出がない限り返却しない。

### 人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果(前所属)
3. 着任時期

### 愛媛大学大学院理工学研究科教員

1. 2007年9月(第100巻9号)
2. 長尾 透(日本学術振興会特別研究員, 国立天文台)
3. 2008年4月1日

### 筑波大学計算科学研究センター教員

1. 2007年12月号(第100巻12号)
2. 森 正夫(専修大学法学部)
3. 2008年4月1日

### 研究助成

#### (財)住友財団 2008年度基礎科学研究助成

1. 対象:  
理学(数学, 物理学, 化学, 生物学)の各分野及びこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの(それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む)
2. 応募資格:  
若手研究者(個人またはグループ)
3. 助成金額:  
(1) 助成金の総額 1億4,000万円  
(2) 1件当たりの助成額 最大500万円  
(3) 助成件数の目処 100件程度  
(4) 助成期間  
1年間ただし希望される場合はさらに6カ月間を限度として延長可。
4. 応募方法:  
住友財団のホームページ(<http://www.sumitomo.or.jp/>)基礎科学研究助成から, 募集要項・申請

書記入要領・申請書フォーム (PDF WORD) をダウンロードしていただくこともできますが、申請書提出は財団まで郵送ください (担当 中山)。ほかに 2008 年度環境研究助成もあります (担当 佐藤)。

5. 応募締切日:  
2008 年 6 月 30 日 (月) 必着
6. 連絡先:  
〒105-0012 東京都港区芝大門 1-12-16  
住友芝大門ビル 2 号館  
財団法人 住友財団 (担当 中山)  
Tel: 03-5473-0161 Fax: 03-5473-8471  
e-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp  
URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

### (財)井上科学振興財団、第 25 回井上學術賞・研究奨励賞などの受賞候補者

(財)井上科学振興財団(西川哲治理事長)は第 25 回(平成 20 年度)井上學術賞、研究奨励賞の受賞候補者の募集をしております。

#### 第 25 回井上學術賞

1. 概要: 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた 50 歳未満の研究者に対し、學術賞(賞状および金メダル、副賞 200 万円)を贈呈する。
2. 受賞件数: 5 件以内
3. 募集方法: 指定の関係 30 学会、および財団の役員・評議員等からの推薦
4. 天文学会からの推薦件数: 1 件
5. 推薦締切日: 平成 20 年 8 月 20 日 (水) 学会着
6. 申込用紙の必要な方は天文学会事務所か下記財団のホームページにあります。ほかに井上研究奨励賞、国際研究集会開催援助、国際研究集会出席旅費、外国人研究者招聘、井上フェロー、久保亮五記念賞(6 月 30 日締切)などの募集も行っております。こちらは井上科学振興財団へ直接応募となっております。

◎照会先: 財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15  
南平台今井ビル 601

ホームページ: <http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

e-mail: [inoue01@inoue-zaidan.or.jp](mailto:inoue01@inoue-zaidan.or.jp)

### 2009 年度(平成 21~22 年度)開催 藤原セミナーの募集について

#### 趣意

藤原科学財団は、科学技術の振興に寄与することを

目的として、「藤原セミナー」の開催を希望する研究者から、申請を受け、選考の結果採択を決定したものについて、セミナー開催に必要な経費を援助いたします。

1. 対象分野: 自然科学の全分野
2. 応募資格: わが国の大学など学術研究機関に所属する常勤の研究者
3. 開催件数: 2 件
4. 開催費用援助額: 1 件につき 12,000 千円以内
5. セミナー対象期間: 2009 年 1 月 1 日~2010 年 12 月 31 日
6. 申請受付期間: 2008 年(平成 20 年)4 月 1 日(火)~同年 7 月 31 日(木)(必着)
7. 申請方法: 「セミナー開催申請書」(1 通)を所属機関長を経由して当財団に提出すること。尚、著名な参加予定者については、セミナーのテーマに関する主要論文(5 名以内)1 人につき 1 編、コピーで可)を添付のこと。
8. 申請書提出先・連絡先

〒104-0061 東京都中央区銀座 3-7-12

財団法人 藤原科学財団

Tel: 03-3561-7736 Fax: 03-3561-7860

藤原科学財団ホームページ:

<http://www.fujizai.or.jp> (尚、ホームページにも開催申請書が掲載されております。)

### 研究会・集会案内

#### 国立天文台野辺山宇宙電波観測所 「電波天文観測実習」の参加者募集

国立天文台野辺山宇宙電波観測所では、45 m 電波望遠鏡を使った「電波天文観測実習」を行います(総合研究大学院大学「夏の体験入学」)。当観測所は、45 m 望遠鏡・10 m ミリ波干渉計・10 m サブミリ波望遠鏡(南米チリ)を用いて多数の星間分子の発見、原始惑星系ガス円盤の検出、銀河中心にある巨大質量ブラックホールの発見など数多くの重要な研究成果を上げています。この「電波天文観測実習」は、天文学に関心をもつ大学生の皆さんに研究の最前線で活躍中の 45 m 望遠鏡を使った観測実習を通して、電波天文学の実際に触れていただくのがねらいです。参加者には普段研究者が行っている 45 m 望遠鏡の操作、データ取得・解析、結果のまとめをしていただきます。特に専門知識は必要ありませんが、大学で物理実験を経験していることが望ましいです。関心をお持ちの多くの方のご応募をお待ちしています。

## ●開催日程

2008年8月4日(月)13時30分～8月8日(金)11時30分(4泊5日)

## ●場所

国立天文台野辺山宇宙電波観測所 (JR 小海線野辺山駅から徒歩40分)

## ●定員

8名程度

## ●対象

大学の理科系学部(教育学部の理科系も含む)に属する学生(1-4年生)

## ●費用

旅費・滞在費がサポートされる可能性があります。

## ●応募方法

住所、氏名、所属大学および学部・学科、学年、年齢、性別、電話番号、e-mailアドレス(持っている場合)を明記の上、以下の(1)-(4)に回答し、7月7日(月)必着で下記の応募先まで送付。

- (1) 大学で物理実験の経験がありますか?
- (2) (1)で「はい」と回答された場合、一番印象に残った実験は何ですか? どのような点で印象に残ったのですか?
- (3) あなたが持っている天文学への想い・イメージについて何でも結構ですでお書きください。(600字以内)
- (4) 実習に参加希望の理由は何ですか?(600字以内)

なお、送付された資料は返送いたしません。

## ●選考結果の発表

7月14日郵便で発送

(\*上記住所以外への発送を希望する場合は発送先を明記してください)

## ●問合せ先・応募先

〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山462-2  
国立天文台野辺山宇宙電波観測所「観測実習係」  
Tel: 0267-98-4333  
ホームページ <http://www.nro.nao.ac.jp/~nro45mrt/misc/45school.html>  
封筒に「観測実習応募書類在中」と朱書してください。

## 第4回最新の天文学の普及をめざす ワークショップ参加者募集

「最新の天文学の普及をめざす会」は、プラネタリウムや公開天文台など、天文教育担当者を対象に最新の太陽科学を学ぶワークショップを下記のように開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

日程: 2008年9月15日13時～17日15時

場所: 広島大学宇宙科学センター

〒739-8526 東広島市鏡山1-3-1

広島大学東広島天文台

〒739-0023 東広島市西条町下三永695番地1

定員: 30名

参加費: およそ1万7,000円(主に会期中の宿泊費、食事および懇親会費)

応募方法: 希望者は氏名、連絡先、e-mailアドレス、所属を明記して、レポート「ブラックホールに対する私の興味」(A4, 1ページ程度)を添付して7月6日までに国立天文台天文情報センターの伊東までお送りください。参加者選考結果は7月20日に本人あて通知します。

応募締切: 2008年7月6日(日)

応募先: 〒181-8588 三鷹市大沢2-21-1

天文情報センター 伊東昌市あて

Tel: 0422-34-3802 Fax: 0422-34-3812

e-mail: [shoichi.itoh@nao.ac.jp](mailto:shoichi.itoh@nao.ac.jp)

主催: 最新の天文学の普及をめざす会(代表: 伊東昌市)、日本プラネタリウム協議会、日本公開天文台協会、天文教育普及研究会

後援: (予定) 広島大学、広島大学東広島天文台(宇宙科学センター)、国立天文台、日本天文学会  
宿泊場所: ホテル「スリープイン東広島」他(予定)

Tel: 082-426-2222

ワークショップの目標

- (1) 最近のブラックホール、高エネルギー天文学研究の成果をプラネタリウム、公開天文台、科学館あるいは学校などの教育に組み入れるため
- (2) ブラックホールを理解するためのフレームワーク作りのため
- (3) 研究者とのコラボレーションのための種とする
- (4) 広く大勢の人々にブラックホールあるいは高エネルギー天文学について興味をもってもらうため
- (5) 実際にガンマ線バースト観測を行っている望遠鏡を使って高エネルギー天文学観測現場を学び、子どもたちへブラックホール研究について伝える

なお、本ワークショップは「子ども夢基金助成補助」を受けて実施します。

プログラムの詳細は

<http://shin-pla.info/related-events/20080915ws.pdf>

でダウンロードできます。

## 会務案内

### 【理事会議事録】

日 時：2008年3月25日（火）12時～13時

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟1階会議室

出席者：土佐，國枝，柴橋，花岡，高田，北本，田村，堂谷，渡部，中本，比田井，嶋作，高羽，福田，和田ほかに東條事務長が出席した。

議長は土佐理事長，議事に先立ち，花岡，高田両庶務理事を署名人に選出した。

### 報 告

#### 1. 前回議事録の確認

高田庶務理事より前回議事録が資料1に基づいて紹介され確認が行われた。

#### 2. 本年会について

中本年会理事より口頭で開催中の年会についての報告が行われた。

3月23日（日）に記者会見が行われ，8社の参加があったこと，すでに新聞2紙，ネット上での記事も数件確認されたことが紹介された。

また年会の参加者は3月25日（火）正午現在で623名であることもあわせて紹介された。

#### 3. 百周年記念講演会・祝賀会について

柴橋副理事長より口頭で3月23日（日）に行われた百周年記念講演会および祝賀会について説明が行われた。講演会については参加者が約300名，祝賀会は160名の参加があったこと，文部科学大臣，日本学術振興会，日本学術会議理事長の祝辞，国外の3機関（イギリス，ヨーロッパ，韓国の天文学会）からの招待客の祝辞のほか，国外6機関からメッセージが寄せられ，大変盛況であった旨報告された。

#### 4. 世界天文年について

國枝副理事長より口頭で世界天文年に関する準備状況について説明が行われた。本年年会中に関係者での打ち合わせがもたれる予定で，巡回展についての内容についての詳細を詰める予定であること，展示の題目がまだ決まっていない点などが紹介された。募金委員会への寄付金の集まり具合について質問があり，今後国立天文台が受け皿になる形で進めることで状況の進展を図る予定であることが示された。なお，世界天文年に対する学会からの支出について質問があり，現状では巡回展のみについて予算の支出を考えている旨，あわせて報告された。

### 5. その他

#### (1) PASJ General Index の制作取りやめについて

堂谷 PASJ 理事より資料2に基づいて PASJ General Index について，今後の制作は取りやめる方向で現在検討中であることが示された。次回の理事会において方針を決定することとなった。

#### (2) 年会の係の登録料と懇親会費について

中本年会理事より，配付資料に基づいて，年会の係の登録料と懇親会費について説明が行われた。基本的には現在の年会運営マニュアル中の記述の確認であり，現状の運用方法で問題なしとの認識で一致した。

#### (3) 百周年記念出版の現状

百周年記念出版の現状について高田庶務理事より口頭で報告が行われた。現在，2008年5月の10巻目の出版に向けて準備が進んでいること，年内にすべてを出版する事は絶対条件であることが確認された。遅れが顕著な巻も見受けられるとの憂慮から，原稿の収集や編集等で，現状の人員体制に対してこ入れの必要があるのかどうか，編集委員長の岡村氏に対して相談する必要があるとの認識が示された。

#### (4) PASJ の月刊化について

堂谷 PASJ 理事より口頭で説明があり，PASJ の月刊化に向けて，まずは年9回の発行はできないかを検討中であることが紹介された。編集実務担当の人は何とかできると言っているが，他の関係者とも調整中であることが紹介された。ボトルネックは編集の人繰りであり，担当の人を増やすことを念頭に入れないといけないのではないかとの意見が出されたほか，タイムスケールについては来年度からでもできればやりたいとの希望なので，予算の目処がつけば人員の強化も含め行動を開始するべきではないかとの意見が出された。

#### (5) 月報

和田月報理事より口頭により，今年度で天文月報のバックナンバーの PDF 化は終わる予定であることが紹介された。

### 議 題

#### 1. 新入会員の承認

高田庶務理事より資料3に基づいて新入会員について説明があり了承された。また，退会者等についても報告が行われた。

## 2. 会員名簿の発行について

高田庶務理事より、口頭で今年度に予定されている会員名簿の発行についての手続きについて説明が行われた。個人情報の扱いには細心の注意を払うべきであり、会員全員に対してはがきによる開示情報の確認を行ったほうが良いのではないかと意見が出され、学会としては積極的に行うべきであるとの意見で一致した。なお、開示希望情報についてのみチェックさせ、デフォルトでは名前と会員番号しか載せないなどの工夫が必要であろうとの認識が示された。

## 3. その他

## (1) 記念講演会パンフレットの英語版の配布について

田村会計理事より口頭で、記念講演で配布されたパンフレットの英語版を世界に向けて発信を行ってはどうかとの提案があった。メッセージ性を加える意味で少々の手直しを行ったうえで、各研究機関等に配布することを考えること、日本語版についても月報に載せる方向で検討するべきであるとの意見で一致した。

## (2) 学会ホームページの改善について

柴橋副理事長より口頭で、学会のホームページについて、内容が貧弱であり充実させる必要があること、実務的な事項以外に学会の活動をしっかりと宣伝する内容を日本語ばかりでなく英語でも加えるべきである旨、提案が行われた。

世界各国の天文学会においてはかなりしっかりとした取り組みが行われている点も紹介され、実務理事を中心として改善を検討するグループを用意することで一致した。

基本的に広報の部門を作るなど、抜本的な対応が必要であろうとの認識でも一致した。

## (3) 学会費について

和田月報理事より、予算において着実に黒字が積み上がっているならば学会費の値下げを検討することはできないのかとの質問があったが、いくつかの大幅赤字要素が近々に予想されるため、現状で値下げに踏み切ることはできない旨、北本会計理事より回答された。

次回開催は6月21日(土)の予定。

2008年4月19日

議長 土佐 誠 ㊟  
 署名人 花岡庸一郎 ㊟  
 署名人 高田 唯史 ㊟

## 【評議員会議事録】

日時: 2008年3月26日(水) 12時~13時

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟1階会議室

出席者: 海部, 郷田, 柴田, 須藤, 中川, 永田, 宮川, 渡部, 家, 坂田, 佐藤, 杉山, 谷口, 筒井, 観山, 望月, 山田 (17名)

有効表決状提出者 井上, 岡村, 池内 (3名)

ほかに理事会より土佐理事長, 國枝, 柴橋両副理事長, 花岡, 高田, 北本, 田村, 中本の各理事, および東條事務長が出席した。

議事に先立ち、議長に須藤氏、署名人に望月、永田両氏を選出した。

## 報告

## 1. 前回議事録の確認

高田庶務理事より資料1に基づいて前回の議事録の紹介され、確認が行われた。

## 2. 本年会について

中本理事より開催中の年会について口頭で説明が行われた。年会の運営はおおむね順調で、26日正午現在で登録者数は858名に達したこと、3月23日(日)に行われた記者会見では8社が来場し、現在までのところ、インターネットを中心に多くの報道が行われた旨、報告された。

## 3. 百周年記念講演会・祝賀会について

柴橋副理事長より口頭で3月23日(日)に行われた百周年記念講演会および祝賀会について説明が行われた。講演会については参加者が約300名、祝賀会は160名の参加があったこと、文部科学大臣、日本学術振興会、日本学術会議理事長の祝辞、国外の3機関(イギリス、ヨーロッパ、韓国の天文学会)からの招待客の祝辞のほか、国外6機関からメッセージが寄せられ、大変盛況であった旨報告された。

また、記念講演会についてはパンフレットの配布を行い、英語版も用意したこと、パンフレットの残部200部程度については全国の博物館等に送付予定であることが紹介された。また英語版については1,000部ほど作って世界の関係各所に配布を検討中であることが示された。

パンフレットをダウンロード可能にすることが必要であることが意見として出された。

## 3. 世界天文年について

國枝副理事長より口頭で世界天文年における巡回展の計画の進捗状況について説明が行われた。天文の歴史や将来計画などの5部の構成の内容であるこ

と、今年前半に中身を詰めて動き始める必要があること、次回の評議員会および理事会で最終確定した計画の内容を報告予定であることが示された。

また、海部氏より日本全体での活動について補足説明があり、企画委員会の活動や日本委員会の今後の予定、国立天文台が募金の母体となる方向で話が進んでいることなどが示された。現在、宣伝用のリーフレットを作成中とのこと。また、2008年天文学会秋の年会において世界天文年に関する特別セッションの開催を希望する点が強調された。天文学会として何らかのシンポジウムの企画はできないかとの意見も出され、今後検討していくこととなった。

## 5. その他

### (1) 百周年記念出版の現状について

百周年記念出版の現状について高田庶務理事より口頭で報告が行われた。現在、2008年5月の10巻目の出版に向けて準備が進んでいること、年内にすべてを出版することは絶対条件であることが確認された。遅れが顕著な巻も見受けられるとの憂慮から、原稿の収集や編集等で、現状の人員体制に対しててこ入れの必要があるのかどうか、編集委員長の岡村氏に対して相談する必要があるとの認識が示された。

### (2) 若手研究者の旅費の使用実績に関する調査について

前回の評議員会で若手と実務理事の宿題となった「若手の旅費使用状況の調査」に関して質問があり、若手の会での議論はどうなっているのかについて、具体的なアクションは夏の学校で様々な議論を行う予定であること、アンケート調査を準備中であることが若手代表の評議員メンバーから示された。

これに関連して、天文財団への若手からの申請が減少しており、資金の役割は終わったのではとの意見もあるとの指摘がなされたほか、宇宙科学財団、天文財団、天文学会の役割の分担があっても良いのではないかと意見も出された。

意見として多かったのはいろいろな条件下での旅費等に対する資金の必要性について知りたいとのことで、これに留意したアンケート、議論を進める必要があるとの認識で一致した。

### (3) 学術会議の活動について

海部氏より口頭で学術会議の活動状況について説明が行われた。

長期計画については現在部門を超えた計画のあり方について議論を行い、政策提言的なもの

をまとめようと試みているものの、分野間でなかなか足並みがそろわないのが現状であること、連携会員のうち11名が改選となるので、活動の継続性を保てるように留意する必要性があること等が紹介された。

関連して家氏より学術振興会の中での人文社会関連メンバーとのfundingのあり方などについての議論が紹介された。

また、佐藤、杉山両氏より5月31日、6月1日に予定されている長期計画に関するシンポジウムについて口頭で説明があり、講演を公募中で現状で既に6~7件の応募がある点、天文学会関係者への周知徹底の必要性が示された。

## 議 題

### 1. 従来通りの会員名簿の発行について

高田庶務理事より、口頭で今年度に予定されている会員名簿の発行についての手続きについて説明が行われた。個人情報の扱いには細心の注意を払うべきであり、会員全員に対してはがきによる開示情報の確認を行った方が良いのではないかと意見が出され、学会としては積極的に行うべきであるとの意見で一致した。具体的には、所属機関と自宅の住所・電話番号等についてどの開示を希望するか選択してもらうようにし、本人が意識しないまま自宅等の個人情報が掲載されることがないように配慮が必要であろうとの認識が示された。

### 2. その他

#### (1) 科研費の審査員のデータベース更新について

家氏より科研費の審査員のデータベースについて、今年度は3割程度の追加を行ったことが報告された。

次回開催は7月5日(土)で場所は東京大学を予定。  
2008年4月21日

議 長 須藤 靖 ㊟

署名人 望月優子 ㊟

署名人 永田 健 ㊟

## 【2008 年度春季総会議事録】

日 時：2008 年 3 月 26 日（水）15：30～16：45

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センターセンター棟 4 階（F 会場）

出席者の確認の結果、事前投票総数（会場参加者との重複は除く）は 376 名、会場参加は 167 名である。出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。有効出席者総数は 543 名で、定足数（正会員総数 1,645 名の 5 分の 1=329 名）を満たしていることを確認した。

次に署名人として河野孝太郎氏、濤崎智佳氏が選出された。

つづいて各賞の授与式が行われた。はじめに山岡天体発見賞選考委員長の司会のもと、天体発見賞、天体発見功労賞、天文功労賞が、以下の方々に授与された。

天体発見賞 板垣公一（7 件）、中村祐二（2 件：欠席）、土井隆雄（欠席）、多胡昭彦（欠席）、西村栄男、櫻井幸夫、安部裕史、内藤博之、市村義美、金田宏（欠席）、広瀬洋治の各氏

天体発見功労賞 櫻井幸夫、西村栄男、中村祐二、多胡昭彦（2 件）の各氏

天文功労賞 長期的な業績として浦田 武氏（欠席）、短期的な業績として内那政憲、西山浩一・梶島富士夫（欠席）の両氏、および板垣公一の各氏受賞者を代表して広瀬洋治氏がスピーチを行った。

次に、研究奨励賞、林 忠四郎賞および欧文研究報告論文賞が、以下の方々に授与された。

研究奨励賞 大内正己、高田昌広、野村英子の各氏  
林 忠四郎賞 嶺重 慎氏（欠席）

欧文研究報告論文賞 岩田 生氏ほか 7 名、後藤友嗣氏ほか 17 名の各氏

### 議事の経過および結果

1. 高田理事が資料に基づき、2007 年度事業報告の説明を行った（第 1 号議案）。
2. 田村理事が資料に基づき、2007 年度決算報告の説明を行い、また井上監事が監査報告について説明を行った（第 2 号議案）。
3. 第 1 号議案、第 2 号議案は各々賛成多数で承認された。

なお、事業報告において学会から推薦を行った民間などの賞・研究助成について質問があり、今後、天文月報において詳細なリストを掲載することとなった。

### 討議・報告等

高田理事および栗木早川基金選考委員長が資料に基づき、早川基金に関する内規の変更、および運用方法の具体的な説明を行った。

高田理事が資料に基づき、衛星設計コンテスト推進委員会の設置および内規の制定について報告を行った。

土居 守氏が口頭で、「日本の天文学の百年」について、学会員への配布のスケジュールについて報告した。

海部宣男氏が、学術会議の状況について、および世界天文年についての報告を行った。

2008 年 4 月 19 日

議 長 土佐 誠 ㊟  
署名人 河野孝太郎 ㊟  
署名人 濤崎 智佳 ㊟

## 日本天文学会 2008 年春季年会報告

2008 年春季年会は、3 月 24 日（月）から 27 日（木）の 4 日間、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都・代々木）にて口頭講演会場 7、ポスター会場 3 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 379 件、ポスター講演が 250 件であり、合計で 629 講演だった。これに加えてポストデッドライン講演が 1 件あった。年会参加者は 957 名であった。この参加者数は、過去最高である。ジュニアセッション・天文教育フォーラムのみの参加者も 293 名あった。全体に、開催地理事の嶋作一大氏のほか東京大学を中心とするスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、順調に進行した。また、次の特別講演と特別セッションが開かれた。特別講演：「粒子天文学を切り開く：最高エネルギー宇宙線の観測と展望」

講演者：山本常夏（甲南大学）

「ALMA 特別セッション：東アジア ALMA 地域センター構想と共同利用について」

世話人：森田耕一郎（国立天文台）、立松健一（国立天文台）、中井直正（筑波大学）

「日本学術会議特別セッション：天文学・宇宙物理学長期計画について」

世話人：海部宣男、佐藤勝彦、杉山 直

座長は次ページ表の 42 名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する（敬称略）。

### 〈記者会見〉

春季年会の前日、3 月 23 日（日）13：00 から、学術総合センター会議室にて行われた。土佐 誠理事長より挨拶と日本天文学会および各賞の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われ

	3月24日(月)	3月25日(火)	3月26日(水)	3月27日(木)			
	13:00-15:00	16:00-18:00	10:00-12:00	14:00-16:00			
	10:00-12:00	14:00-16:00	10:00-12:00	10:00-12:00			
	14:00-16:00	10:00-12:00	10:00-12:00	14:00-16:00			
A	太田耕司 (京大)	有本信雄 (国立天文台)	尾中 敬 (京大)	野澤 恵 (茨城大)	川上新吾 (文部科学省)	松崎恵一 (ISAS/JAXA)	桜井 隆 (国立天文台)
B	小久保英一郎 (国立天文台)	渡部潤一 (国立天文台)	樽家篤史 (京大)	本間希樹 (国立天文台)	竹内 努 (名古屋大)	森 正夫 (専修大)	—
C	前田啓一 (京大)	植村 誠 (広島大)	須藤 靖 (京大)	井田 茂 (東京工業大)	本田充彦 (神奈川大)	田村元秀 (国立天文台)	北村良実 (ISAS/JAXA)
D	岡 朋治 (京大)	水野範和 (名古屋大)	釜谷秀幸 (防衛大)	寺田幸功 (埼玉大)	松元亮治 (千葉大)	福江 純 (大阪教育大)	柴崎徳明 (立教大)
E	中澤知洋 (京大)	土居 守 (京大)	宮田隆志 (京大)	川端弘治 (広島大)	瀬田益道 (筑波大)	南谷哲宏 (北海道大)	藤沢健太 (山口大)
F	中田好一 (京大)	岡崎敦男 (北海道大)	—	—	山田 亨 (東北大)	高田唯史 (国立天文台)	—
G	峰崎岳夫 (京大)	土居明広 (ISAS/JAXA)	根来 均 (日本大)	紀伊恒男 (ISAS/JAXA)	玉川 徹 (理研)	和田武彦 (ISAS/JAXA)	土井靖生 (京大)

た。報道機関8社の出席があった。これらの内容は、4月18日までに確認できたもので全国紙6紙に8件の記事として掲載され、地方ニュースでも放映された。その他、地方紙やインターネットにも多数掲載された。

#### ●研究発表

- (1) 大質量星の終焉と塵の誕生の現場—「あかり」衛星と「すばる」望遠鏡などによる観測と理論モデルが解き明かす超新星爆発の素性—

記者会見出席者:

左近 樹(東京大学)、富永 望(東京大学)

関連する講演番号: K05a, K06a, K07a, K08a

- (2) 125億光年彼方の生まれたての小さな銀河—すばるで見つけ、ハッブルで極める—

記者会見出席者:

谷口義明(愛媛大学)

関連する講演番号: Z03a

- (3) アンドロメダの涙、その真実

記者会見出席者:

森 正夫(専修大学)

関連する講演番号: R15a

#### 〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが、3月25日(火)17:30~19:00に、「今、求められる天文学・天文教育とは」をテーマに開催された。これは、今回の学習指導要領改訂に関連して、現代の日本社会から求められる、あるいは逆に社会にアピールすべき天文学・天文教育とは何か、また、学校現場で天文分野を教える教員の方々に対してどのような支援ができるのか、どのような支援が期待されているのかなどについて、幅広い立場から議論してみると

いう趣旨で開催されたものである。最初に「今日までの学校教育における天文学習の流れ」について、国立天文台の縣 秀彦さんに報告していただいた。特に、天文分野の変遷について、詳しい報告がなされた。次に、さいたま市立上木崎小学校の加藤明良さんから「学校現場で期待される天文コミュニティーによる支援」というタイトルで、学校教員のアンケートを中心に、現場で求められる支援の内容について報告していただいた。次に、文部科学省・初等中等教育局・教育課程課の田代直幸さんから、「教育課程部会の審議の経過説明と今回の改訂のねらい—特に天文分野について—」というタイトルで、これまでどのような流れで学習指導要領の改訂が進められて来たのかについて、詳しい報告がなされた。最後に、多摩六都科学館の高柳雄一さんに、「日本社会から求められる天文学・天文教育とは」というタイトルで、高柳さんがふだん子どもたちとどのように接しているのかについて、具体的な事例を上げながら報告をいただいた。

これらの4つの報告をもとに、茨城県立水海道第一高等学校の高橋 淳さんを司会者として、会場の参加者も交えたパネルディスカッションを行った。最初に、学習指導要領に対するパブリックコメントの問題についての議論を行った。その後、銀河系外の宇宙について教えるべき、地球市民が持つべき自然観と学校教育はリンクすべき、コミュニティーでは世代を超えたつながりが大切など、さまざまな意見が出され、大変濃い内容のディスカッションであった。しかし、時間が限られていたため、ディスカッションが十分にできなかったのは残念であった。参加者はおよそ160名。(沢 武文)

### 〈通常総会〉

「通常総会報告」(367頁)を参照。

### 〈研究奨励賞受賞記念講演〉

年会3日目の総会后、同じF会場で15:30から1時間強にわたり、2007年度研究奨励賞受賞者3名の方々に記念講演をしていただいた。一人あたり25分という短い時間ではあったが、それぞれの研究について手際よく紹介していただいた。受賞者と講演題目は次の通りである(五十音順、敬称略)。大内正己(カーネギーフェロー)「遠方宇宙における銀河進化と構造形成の研究」、高田昌広(東北大学)「重力レンズ効果を用いた観測的宇宙論の研究」、野村英子(クイーンズ大学)「星・惑星形成領域の物理・化学構造モデルの構築」。会場(定員300人)はほぼ満席で、立ち見もでる盛況だった。

### 〈特別セッション報告〉

「ALMA 特別セッション: ALMA 東アジア地域センター構想と共同利用について」

ALMA 特別セッションは、年会2日目の3月26日16:15から約1時間、F会場で行われた。最初に、長谷川哲夫国立天文台ALMA推進室室長から、現地で組み上がったばかりの日本の12mアンテナによる初の電波観測結果を含むALMA建設進捗の報告があった。次に、ALMA東アジア地域センター(EA-ARC)マネージャーの立松健一氏が、現在検討中のEA-ARCの理念、ユーザーへ提供する機能、体制、東アジアでの連携などについて詳しく紹介した。この構想に対して、東京大学天文学教育研究センター河野孝太郎氏から、ALMA科学運用のためのサービスの観点からのコメントがあった。また、台湾中央研究院天文及天文物理研究所の大橋永芳氏は、台湾におけるEA-ARCへの取り組みの状況を紹介するとともに、東アジアでのALMAを使ったサイエンスのプロモーションに対するEA-ARCの重要性を述べた。参加者は200名を超える盛況であり、最後に電波関係者に限らず、広い範囲の参加者から活発な議論が行われるなど、ALMA計画への天文学コミュニティの期待の高さが感じられた。(森田耕一郎)

「日本学術会議特別セッション: 天文学・宇宙物理学長期計画について」

日本学術会議物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会は、これからの20年を見通した天文学・宇宙物理学の動向の議論と長期計画の策定のための活動を続けている。本特別セッションは天文学会会員から長期計画について広く意見を求め、また今後の長期計画の策定に会員の意見を反映するために開催された。海部宣男分科会長の趣旨説明の後、佐藤勝彦将来計画小委

員会座長が日本学術会議シンポジウム「天文学・宇宙物理学の展望—長期計画の策定へ向けて—」(2007年12月)の報告と今後の策定の計画概要の説明がされた。その後上記シンポジウムの概要が杉山直幹事や、シンポジウム講演者から紹介され、杉山幹事の司会のもとに意見交換が行われた。参加者は200名を超え、立ち見も出るほどの盛況であった。(佐藤勝彦)

### 〈懇親会〉

懇親会は3月26日(水)に国立オリンピック記念青少年総合センターの国際交流棟レセプションホールで開かれた。参加者は、一般167名、学生80名、招待者13名、開催地関係者39名で、合計299人であった。事前申し込みの出足が今一つだったため気をもんだが、結果としてこのように多くの方に参加していただき、開催地関係者一同、大変感激している。開始に当たり、土佐誠理事長に一言賜り、乾杯の音頭も取っていただいた。会の中ほどで、次期開催地の岡山理科大学の福田尚也氏にお言葉を頂戴した。その後、東京大学の名産である泡盛を各テーブルに配り、これを寄付していただいた東京大学副学長の岡村定矩氏にお言葉を戴いた。お酒を飲まない方にはお菓子を用意した。21時頃に閉会したが、途中で料理がなくなることもなく、おおむね満足していただけたのではないかと考えている。なお、懇親会の準備と当日の指揮は左近樹が中心となって行なった。(嶋作一大)

### 〈保育室〉

保育室は、国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟108室を使用した。乳児受け入れのため、室内に授乳場所を用意した。5家族、子供7人の利用があった。保育者の派遣は、株式会社ファミリー・サポートに依頼し、年会実行委員会側は保育室担当が対応した。準備にあたっては、東京大学の嶋作一大氏ならびに同大学教員、学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する

(泉浦秀行、岡 朋治)。

### 〈ジュニアセッション〉

第10回のジュニアセッションを、天文教育普及研究会と高校生天体観測ネットワークとの共催、日本惑星協会の後援で開催した。口頭発表45件とポスターのみ発表8件があり、合計53件の発表があった。また、すべての口頭発表はポスターでも発表がなされた。今回は、タイの生徒11名が来日して5件の発表を行った。発表内容は多岐に渡っており、12のセッション(流星、彗星、小惑星、月・惑星、太陽、恒星、「きみっしょん」、タイ、銀河系、銀河、観測機器・光害)に分けて発表がなされた。口頭発表は、3月25日の午前(10:00-12:00)および午後(14:00-16:00)に行

われたが、発表件数が多かった（過去最多）ため、1件あたりの発表時間は3分となった。ポスターセッションは、13時と16時から1時間ずつ行った。口頭発表は、ライブ！ユニバースのご協力により、インターネットで中継された。口頭発表のセッションでは、参加者が350名ほどあり、その司会は、亀谷和久氏、平松正顕氏、高梨直紘氏、藤原英明氏にお願いした。なお、3月26日には、高校生天体観測ネットワークと共同して、日頃の活動報告を主体とする交流セッションを行った。開催地のスタッフの方々には多大なご協力をいただいた。ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい。（吉川 真）

〈公開講演会〉

一般向けの公開講演会は「天文学 これまでの百年、これからの百年」をテーマに、「一学会創立百周年を記念して一」という副題のもと、3月29日（土）11:00より東京・有楽町朝日ホールで開催した。土佐誠理事長（東北大学）の挨拶の後、まず天体発見賞選考委員会委員長の山岡 均氏（九州大学）の講演「天文愛好家と天文研究者の100年」で、日本天文学会の特徴である愛好家の活躍とプロの連携について語っていただいた。昼食休憩後には、天文学のそれぞれの分

野から、その発展と展望を紹介して頂く第二部として、まず小平桂一氏（総合研究大学院大学）の講演「z項から100年—「すばる」望遠鏡の時代—」では、有名なz項の発見を起点にすばる望遠鏡やアルマ計画に至る地上観測による天文学の変遷が紹介された。つづいて、井上 一氏（宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部）の「宇宙空間からの天文学の発展」は、X線観測に始まる飛翔体による天文学・宇宙科学の発展について、惑星科学までをカバーした将来計画も含めての講演であった。最後に佐藤勝彦氏（東京大学）の講演「宇宙論の現状と展望」では、インフレーション宇宙論の観測的な実証から、謎に満ちたダークエネルギーに至るまでの幅広い展開が紹介された。講演に対する質疑応答もそれぞれ活発で、指名を待てない人もいたほどであった。今回は新しい試みとして、各講演者の著書を出版元（日本評論社、技術評論社、星の手帖社、早川書房）に出店を依頼し、ロビーで販売したが、たいへん好評であった。今回の入場者数は305名であった。（渡部潤一）

（年会実行委員長：中本泰史）

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード：雑誌コード **vol98** の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

和田桂一（編集長）、浅井 歩、今西昌俊、衣笠健三、齋藤正雄、寺田幸功、戸谷友則、三好 真、矢野太平、吉田直紀  
 平成20年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
 印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社  
 定価700円（本体667円） 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会  
 Tel: 0422-31-1359（事務所）/0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595  
 日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [toukou@geppou.asj.or.jp](mailto:toukou@geppou.asj.or.jp)

©社団法人日本天文学会 2008 年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）